

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第1区分
 【発行日】平成25年2月14日(2013.2.14)

【公表番号】特表2010-506565(P2010-506565A)
 【公表日】平成22年3月4日(2010.3.4)
 【年通号数】公開・登録公報2010-009
 【出願番号】特願2009-532433(P2009-532433)
 【国際特許分類】

A 2 1 B 3/04 (2006.01)

A 2 1 B 5/00 (2006.01)

A 4 7 J 27/14 (2006.01)

【F I】

A 2 1 B 3/04

A 2 1 B 5/00

A 4 7 J 27/14

【誤訳訂正書】

【提出日】平成24年12月20日(2012.12.20)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

空気分配ダクトにおいて、
 カバー板と、

少なくとも1つの分配板とが設けられており、前記カバー板と前記分配板とがそれぞれ、
前記カバー板と前記分配板とに配置された複数の開口を有しており、
該開口が、実質的に円形でありかつ約12.7mm～約50.8mmの直径を有し、
前記分配板における前記開口の前記直径と、前記カバー板における前記開口の前記直径
との比が、4:5～1:4であることを特徴とする、空気分配ダクト。

【請求項2】

前記開口が、約15.875mm～約22.225mmの直径を有する、請求項1記載の空気分配ダクト。

【請求項3】

前記開口が、約12.7mm～152.4mmの距離だけ間隔を置いて配置されている、請求項1記載の空気分配ダクト。

【請求項4】

約12.7mm～約50.8mmの間隔を置いて配置された複数の前記分配板が設けられている、請求項1記載の空気分配ダクト。

【請求項5】

前記カバー板と、前記分配板とが、約25.4mm～約44.45mmの距離だけ間隔を置いて配置されている、請求項1記載の空気分配ダクト。

【請求項6】

食品を調理又は加熱するためのオープンにおいて、
 複数の空気分配ダクトと、

少なくとも1つのコンベヤとが設けられており、

前記食品が、前記オープン内において前記コンベヤに載置されており、前記空気分配ダ

クトが、

カバー板と、

少なくとも1つの分配板とを有しており、前記カバー板と、前記分配板とがそれぞれ、前記カバー板と前記分配板とに配置された複数の開口を有しており、

該開口が、約12.7mm～約50.8mmの直径を有する円と同等の面積を有し、

前記分配板における前記開口の前記直径と、前記カバー板における前記開口の前記直径との比が、4:5～1:4であることを特徴とする、食品を調理又は加熱するためのオープン。

【請求項7】

前記開口が、矩形、正方形、菱形及び多角形から成るグループから選択された少なくとも1つの形状を有する、請求項6記載のオープン。

【請求項8】

前記開口が、実質的に円形でありかつ約12.7mm～約50.8mmの直径を有している、請求項6記載のオープン。

【請求項9】

前記開口が、実質的に円形でありかつ約15.875mm～約22.225mmの直径を有している、請求項8記載のオープン。

【請求項10】

少なくとも1つの空気分配ダクトが、前記コンベヤの一方の側に配置されており、少なくとも1つの空気分配ダクトが、前記コンベヤの他方の側に配置されている、請求項6記載のオープン。

【請求項11】

前記空気分配ダクトが、前記コンベヤから約50.8mm～約203.2mmだけ離れて配置されている、請求項10記載のオープン。

【請求項12】

オープンが、互いに上下に配置された複数のコンベヤを有している、請求項6記載のオープン。

【請求項13】

前記複数の空気分配ダクトが、食品に対する様々な熱伝導率を有するように、前記複数の空気分配ダクトのうち少なくとも1つに流入する空気流が少なくとも部分的に妨害される、請求項6記載のオープン。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0026

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0026】

本発明は、吹付けジェット熱伝導率がオープン内で変化しているオープンにおいて、前述のより大きな開口を使用することも想定している。この実施形態において、食品に伝導される熱は、単位時間ごとにエネルギーを受け取るための食品の能力に適合するために、段階を追って提供されることができる。言い換えれば、オープン（例えば上述のオープン10）における空気分配ダクト熱伝導率は、オープン内のコンベヤに沿った様々な箇所においてより高い又はより低い熱伝導を提供するように変化させられることができる。このような構成が図9に示されている。この実施形態において、空気ジェットは、食品への熱伝導率を変化させるために、部分的に又は完全に遮断されていることができる。コンベヤの上方及び下方に配置された12個の空気分配ダクトを有する、複数の結合された調理室（図示の実施形態においては3つの調理室）から成る図9に示された実施形態において、オープンシステムの上における第3の空気分配ダクトは、80%の能力で作動している。上部における第6及び第7のダクトは、40%の能力で作動しており、上部における第11の空気分配ダクトは、完全に閉鎖されている。コンベヤの下方における空気分配ダ

クトは全て、完全な能力で作動している（しかしながら、必要であれば部分的に又は完全に閉鎖されていてもよい）。この実施形態の空気分配ダクトは、図示された特定の構成とは異なるあらゆる数の様々な能力を有することができる。空気分配ダクトのカバー板は、所望の能力を達成するために機械的な構造体で被覆されることもできる。